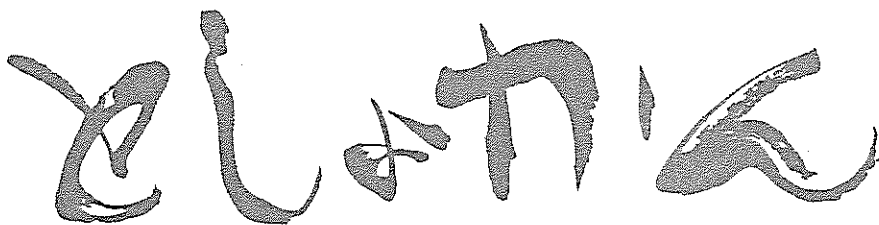


宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくります。



編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町 7 番 57 号 〒320 TEL 36-0231

来館者読書意識調査

62年度

この調査は、昭和62年8月19日（8月29日の開館日（10日間））に来館した小学生以上の利用者を対象に行つたもので、有効回答数は、

小学生206人、中学生188人、高校生145人、一般84人であった。なお性別の割合は、女性が多く、小学生が60%、中学生が63%、高校生も66%が女子であったが一般（小中高校生を除く）は男女ほぼ同数となつた。

どんな本を読みますか？

小学生では、最も多く読まれているのが、童話で、次にSF・推理小説、歴史の本、趣味の本、絵本の順であった。学年別では、一・二年生は、童話、絵本が多く読まれ、三・四年生では、童話、歴史、趣味の本などを読み、五・六年生になるとSF・推理小説などを読んでいるのがわかった。具体的には、小学生の好きな本として、1位が日本の歴史、次いでノンビリすいぞくかん、ヘレンケラー、シャーロック・ホームズ、伊達政宗の順であった。好きなマンガは、ドラえもん、キン肉マン、キャン

ディ・キャンディ、こちら葛飾区亀有公園前派出所、ドラゴンボールの順であった。

中学生では、1位が雑誌、マンガ、次に小説、趣味・娯楽書、学習参考書の順になった。学年別では、一・三年とも、雑誌、マンガ、小説が多い。

高校生も、1位が雑誌、マンガ、次に小説、趣味・娯楽書、学習参考書の順で、中学生と同じであった。

一般では、1位が小説で、次に専門書、趣味、娯楽雑誌・マンガの順であった。年代別では、10代から30代までは、小説を読み、40代では、趣味・娯楽書も多く読んでいる、具体的には、中学生は、若草物語、吾輩は猫である。お母さんぼくが生まれてごめんなさい、ビルマの堅琴、坊ちゃんの順で、好きな本としてあげている。高校生は、人間失格、アンネの日記の順であった。好きな著者としては、中学生、高校生とも、1位が赤川次郎、2位が夏目漱石の順であった。好きなマンガは中学生が、星のひとみのシルエット、ドラゴンボール、ドラえもん、高校生は、

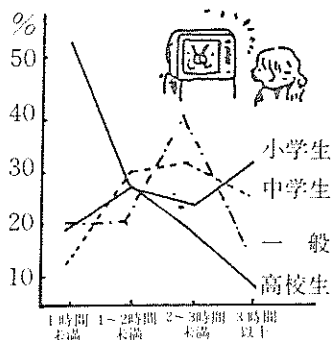
ホットロード、ハダシのゲン、ベルサイユのバラの順であった。

新聞・テレビ・ラジオの視聴状況は？

新聞は、中学生14%、高校生12%の人が、読んでいないが、一般では、99%の人が新聞を読んでいると答えている。くらしの中に深くは入りこんでいるのがわかる。読む時間は、1時間未満が、最も多い。

テレビは、小学生5%、中学生4%、高校生10%、一般では2%の人がみていない。なお、1日にみる時間は、表のとおりである。

1日にテレビを見る時間



ラジオは、中学生36%、高校生43%、一般は42%の人が聴かないと答えた。

読書ばなれは、しているか？

中学生51%、高校生35%、一般49%の人が、読書ばなれしていると答えた。その原因としてあげているのは、主にテレビ、ラジオなどで、情報が伝えられる、次に学校の勉強や仕事の勉強で忙しいであった。

1カ月の読書量は、小学生6.3冊、中学生4.4冊、高校生3.3冊であった。1日の読書時間は、中学生は、1時間未満(36%)が最も多く、高校生も、1時間未満(53%)であり、一般も、1時間未満が31%で、最も多かった。

小学生は、図書館がすきですか？

小学生の77%の人が、すきと答え、きらいは、3.4%で、どちらでもないが、16.5%であった。



巡回文庫（公民館・分館）

増冊今年度分完了

図書館では、前年度から五年計画で、巡回文庫の配本冊数の増冊を進めています。今年度分として、左表の3か所の増冊を終了しました。

図書館では、市内に16ある公民館のうち、宇都宮公民館を除く15の公民館と、22ある公民館分館のうち、図書館から比較的距離の遠い11の分館に、巡回文庫として図書を配本しています。

分館は、スペースの関係で増冊できない東、錦の2館を除き、これまで前年度増冊した6分館を含め、全ての分館で10冊から50冊への増冊を完了したことになります。

増冊か所と配本冊数

区分 配本所名	一般書	児童書	紙しばい
築瀬分館	300	160	40
宝木分館	200	260	40
昭和分館	500	—	—

公民館は、当初から10冊の所が

国本、篠井、富屋と3か所ありますが、来年度には50冊に増冊の予定で、以後、順次増冊し、最終65年度までには、公民館では、〇〇冊、五、〇〇〇冊の範囲で配本を目標にしています。

配本した図書は、できる限り新しい図書とするため、配本所を6グループに分け、グループ内で順送りする方法をとり、毎週木曜日にその1グループの入れ替え、つまり各配本所では7週に一度の割合で、配本している冊数の約半分を入れ替えています。

ぜひ、お近くの巡回文庫をご利用ください。

巡回文庫利用案内

●本は、1人5冊まで、2週間借りられます。貸出は、月・土曜日（祝日を除く）の、公民館や分館が開いている間です。職員にお申出ください。

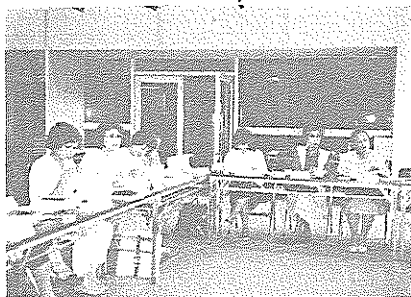
●貸出券が必要です。市立図書館や移動図書館で作ったことがない方は、ここで作成できます。市立図書館などで既に作った方は、その券をお使いください。

読書会発足

一冊の本を読んだ後の感想や意見は、人それぞれ様々なものがあります。読書会は、あらかじめ読んでおいたテキストについて意見を発表し、話し合いを進めて行きます。自分が気付かなかった点や、感じ方の異なった意見も聞くことができます。本をいろいろな角度から見るができます。

市内には多くの読書会があり、それぞれ活発な活動をしてきました。60年度には、宇都宮市読書会連合会が結成され、読書会相互のつながりを深めています。

読書会活動の輪をさらに市内に広めようと、今年度から、図書館主催による読書会を、図書館を会場にして開催することにいたしました。



7月初めに市広報「うつのみや」で、市民から参加者を募集し、7月21日（水）に最初の会合を持ちました。参加者は24名、自己紹介の後、読書会の運営のし方について打ち合わせをし、さらにテキストの選定を行いました。図書館の主催で開かれる読書会ですが、今後は参加者の自主的な運営を尊重することとし、図書館は、テキストや参考資料の提供など側面的援助に努力することを運営の基本としました。

「野薔薇の道」、9月が有吉和子著「鬼怒川」、10月が三浦哲郎著「白夜を旅する人々」に決まりました。

今までに「野薔薇の道」と「鬼怒川」の読書会が終っています。

「野薔薇の道」は、在日朝鮮人が日本で生きて行くことの悲哀が書かれており、登場人物への同情、日本人の差別などの点に活発な意見が出されました。「鬼怒川」は作品の舞台が宇都宮から近隣の結城地方であったため、興味を持てるテキストであったようです。

参加者の皆さんは、毎月1回の例会をたいていへん楽しみにしておられます。この読書会は、いつでもどなたでも入会できますので、希望の方は図書館までご連絡下さい。例会は毎月第3火曜日、午前10時～12時です。11月、12月にはそれぞれ、立松和平著「遠雷」、向田邦子著「父の詫言状」を予定しています。

染色本の寄贈

半田きもの学院理事長半田理一郎氏から、染色、織物関係の七十一点（百八十万円相当）の資料が寄贈されました。

これらの資料は、専門的なため出版点数が限定され、収集が困難なものばかりです。

スライド傳統工芸染色篇全十八巻（衣生活研究会）、日本染織藝術叢書（芸艸堂）、日本の染織（中央公論社）、染織大鑑（光村推古書院）、日本の染織（至文堂）など染織の資料が体系的に収集され、研究資料として充実しています。

呼び出し

現在、二階ロビーで資料の一部を展示中です。是非ご覧ください。図書館は、静かに本を読んだり、わからないことなどを資料を使って調べるための施設です。

呼び出し放送は、こららの妨げになるばかりでなく、ボランティアの人のテープの吹き込みや、講座・会議等を行なっている部屋にも入ってしまいますので、火事や事故等の緊急時以外は呼び出しをお断りしています。

民話研究講座

青沢
和夫氏

7月26日(日)に児童文学者の吉沢和夫氏を迎え、「民話研究講座」を開催いたしました。

「日本民話の会」運営委員であり、ご自身民話の絵本を書いていらっしゃるのです。民話について、まじめにとりこんでおられる姿が講演の中から感じられました。学問的に話されると堅苦しくなりがちな話を、わかりやすく、採取の時のエピソードもまじえながら語られました。

民話とは何でしょうか、また、伝説と民話の区別について、受講生にわかりやすく、きちんと話されました。

夏休みということもあり、いつもより受講生が少なかったにもかかわらず、まじめに話していただいたという感想もよせられました。今回の話しは、入口のところまで終りとなつてしまいましたので、ぜひ、この続きをお願いしたいというアンケートも多数見受けられ

読み聞かせ教

池谷直美氏

8月30日(月)に「語り手たちの会」の池ヶ谷直美先生を迎え、「読み聞かせ教室」を開催しました。

「子どもたちの心を育てる本と語り」をテーマに話されました。

レモンとハンカチを使って、お話をしたり、実際に語りをしていただき、受講生たちもうなずきながら聞いていました。

また、絵本についても、何冊かとりあげ、読み聞かせを入れながら、その大切さについても話されました。

語り手たちの会で、実際に語り
や読み聞かせを実践しておられる



先生なので、受講生にとっても身近によくわかる話でした。

今回は、語り手たちの会代表の
桜井美紀先生を予定しておりまし
たが、先生急病のため突然池ヶ谷
先生にお願いすることになりました。
た。

子ともたちに少しでも多く語りや読み聞かせをしてほしいと結ばれ、楽しく終ることができました。

第一回 子どももつなぐ講座

中川李枝子氏

また、民話について、自分自身で学んでいきたいという人も何人かいて、これから、民話について学んでいける集まりが出来てきたら、うれしいことです。

昔話は生きものの、触れ合いの、真髓を感じました、という感想をよせられました。

9月5日(土)に児童文学者の中川李枝子先生を迎え、「子」とも子どもの本をつなぐ講座」第二回を開催しました。

今回は特に、東部地区の利用者のことを考えて、東公民館で行いました。

テーマは「本のこと——小学校中・高学年の読書について——」ということで、先生自身の代表作である「いやいやえん」についてのお話しやご自身の幼年時代のことや、保母の時代についてなど、楽しく語られました。



教育文化ホリデイ 養成講座

丸山
一彦氏

9月13日(日)白鷗大学教授の丸山一彦氏を迎えて、第2回教育文化ボランティア育成講座を開催しました。

「一茶と人生劇場」をテーマに「一茶」という人間の生きざまを一茶の作品を通して語られました。

一茶にとつて人生は一つのドラマであり、生きるということとは自分の役柄を精一杯演じることであると考えていた節があります。

それは、一面では「一茶」という人



考えられず、本が好きで好きでたまらない。読書は人それぞれのものであり、子どもは楽しみのために本を読むということです。

子どもを本好きにするには、子どもをよく知っていて、本も好きな大人が、その子どもの周りにいることが大切だと話されました。

中川先生の話をたくさんの方々が受講し、満足していました。



間が一つの演技性の強い人間であ
って、また、作品の面でも一茶自
身が劇中人物の一人のような書き
方になっています。

家庭人としても俳人としても、一茶はそれぞれの役割を精一杯演じて生き抜いて来たと思われま

しかし、一茶の心の中には、俳諧などで暮らしていることによる遊民という負い目と、農民の子でありながら不耕徒食の生涯を送つたという負い目が、重なつて食ひ込んでいたことがわれます。

お知らせ

十月中旬より当分の間、玄
 関ポーチ天井改良工事のため
 西側玄関を閉鎖いたします。
 ご迷惑をおかけしますが、
 ご協力お願いします。なお、
 現在のブックポストは使用で
 きませんので、自動扉横に設
 置のポストをご利用ください

合同読書会

日時 10月11日(日)

午後1時30分～3時30分

講師 松本富生氏

場所 市立図書館3階集会室

テーマ 「自作を語る」

定員 120名

テキスト 「野薔薇の道」

図書館1階カウンターでお渡しします。

受付 10月2日(金)午前9時30分から、電話か直接、市立図書館へ。

読書活動 推進講座

日時 10月24日(土)

午後2時～4時

講師 作家 立松和平氏

場所 市立図書館3階集会室

テーマ 「境界からの誘惑」

定員 120名

受付 10月16日(金)午前9時30分から、電話か直接、市立図書館へ。

利用者大集会

日時 11月8日(日)

午後1時30分～3時30分

講師 沢木耕太郎氏

場所 市立図書館3階集会室

テーマ 未定

定員 120名

受付 10月30日(金)午前9時30分から、電話か直接、市立図書館へ。

落語会

第31回落語会を開催します。

生の落語会の模様を「声の図書」として作成し、目の不自由な方々に、「聞く読書」を楽しんでいただいております。

寄席の雰囲気を出すためには、あなたの笑い声が一番です。ご来場をお待ちしております。

ニュース コーナー

日時 11月21日(土)午後3時～5時

場所 市立図書館3階集会室

図書館利用講座

より上手に図書館を利用していただくために、今年も図書館利用講座を行います。ご参加ください。

日時 11月29日(日) 午前10時から午後5時 (昼食は各自用意ください)

場所 市立図書館3階集会室
内容 図書館の仕組、本の探し方、調査の仕方など。

貸出状況

区分	62年8月	62年度累計 62/4～62/8
登録者数	1,488人	114,129人
貸出人数	館内	23,161人
	視聴覚	2,743
	館外	2,820
計	28,724	112,270
貸出冊数	館内	78,086冊
	視聴覚	7,095
	館外	12,129
計	97,310	396,547

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

○貸出は

図書・紙芝居

レコードCDコンパクトディスク5枚

(ただしCDは2枚)

ビデオ・フィルム 5冊

あわせて15点まで

○講座の問い合わせ・申込み

電話または直接図書館へ

電話 (36) 0231

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					①	2 3
4	⑤	6	7	8	9	⑩
11	⑫	13	14	15	16	17
18	⑬	20	21	22	23	24
25	⑭	26	27	28	29	30 31

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑬	17	18	19	20	21
22	⑮	24	25	26	27	28
29	⑯					

ボランティア製作

あたらしい本

▽家族(増山初美)▽
女たちの家(吉田紀子)▽コワレフスカヤの生涯(猪瀬鏡子)▽
やくそくはやくそく(阿久津恵子)▽はだしのゲン(下) (斎藤恵子・増山初美)

声の図書

▽祝婚歌(安喰とみ子)▽ふた子の星・注文の多い料理店・ツエネズミ(石井武子)▽つかぬことを言う(花岡礼子)▽四季のつけ物(鴨志田正子)▽文明の旅(須藤秀代)▽世界王国論(横山嘉子)▽日本の酒・子どもの心臓病・途方にくれて・オツベルと象(藤田東子)▽海の晩鐘・うめぼし博士の逆・日本史I(田中義子)▽老人で儲ける悪徳病院(木村あい)▽あしたへの旅(須藤秀代)▽昼と夜の殺意・レ・ミゼラブル(田(間康子)▽私のアンネ・フランク(青木桂子)

寄贈

酒本勝市「学校の条件」、渡辺清「歌集ことばき第十一」、野田朱美「夢遊劇」、相馬梅子「天の弦」、大野登士「なりゆきらしく」、菊地正夫「軽きロザリオ」、宇大附属小「附属小学校百年史」他。